

聖書日課 『からし種』 2020.9.13-9.20

<p>9月20日 (日)</p> <p>詩編 44編</p>	<p>「我らはあなたゆえに、絶えることなく／殺される者となり／屠るための羊と見なされています。主よ、奮い立てください。なぜ眠っておられるのですか・・・目覚めてください」(23—24節)。この詩編の言葉は、十字架で殺されていくイエス・キリストを思い起こされる。主のゆえに、苦しむ時にも主の慈しみがわたしたちに注がれていることを信じて歩みたい。</p>
<p>21日 (月)</p> <p>詩編 45編</p>	<p>「心に湧き出る美しい言葉／わたしの作る詩を、王の前で歌おう。わたしの舌を速やかに物書く人の筆として」(2節)。賛美の言葉はわたしたち一人ひとりの心から湧き上がってくる。賛美の方法は、賛美歌だけでなく、わたしたちの生活の中にあるものすべてを用いることができる。輝く清い麻の衣を着る(黙示録19・8)キリストを賛美する歌を今日も唇にのせて。</p>
<p>22日 (火)</p> <p>詩編 46編</p>	<p>「主の成し遂げられることを仰ぎ見よう。主はこの地を圧倒される。地の果てまで、戦いを断ち／弓を砕き槍を折り、盾を焼き払われる」(9～10節)。喜びを与えて下さる神がおられるからこそ、山が揺らぎ、地が混沌に支配されたとしても、わたしたちは主の希望を見ることができる。力の支配が蔓延するこの地から戦いが断たれる日を祈り求めて。</p>
<p>23日 (水)</p> <p>詩編 47編</p>	<p>「歌え、神に向かって歌え。歌え、我らの王に向かって歌え。神は、全能の王／ほめ歌を歌って、告げ知らせよ」(7～8節)。詩編の中では、神賛美が繰り返し歌われる。神の民は自由にされ、礼拝へと呼び集められる。この世界のすべての被造物を形づくった創造主である神の働きに期待して、その神への賛美をささげる歩みができますように。</p>

聖書日課 『からし種』 2020.9.13-9.20

<p>24日 (木)</p> <p>詩編 48編</p>	<p>「神よ、賛美は御名と共に地の果てに及ぶ。右の御手には正しさがあふれている。あなたの裁きゆえに／シオンの山は喜び祝い／ユダのおとめらは喜び躍る」(11～12節)。コロナで教会に「集う」という当たり前が壊された。なぜ教会に共に集い合い、礼拝をささげるのか。当たり前が崩される中で、共に主からの問いをいただいて。</p>
<p>25日 (金)</p> <p>詩編 49編</p>	<p>「神に対して、人は兄弟をも贖いえない。神に身代金を払うことはできない。魂を贖う値は高く／とこしえに、払い終えることはない」(8～9節)。信仰共同体として呼び集められていても、わたしたちは神の前で、一人の生きる者として立たされている。民族や人種、地域によって命の価値が変わることはない。どの命も身代金を払うことが出来ないほどの尊いもの。</p>
<p>26日 (土)</p> <p>詩編 50編</p>	<p>「告白を神へのいけにえとしてささげ／いと高き神に満願の献げ物をせよ。それから、わたしを呼ぶがよい。苦難の日、わたしはお前を救おう。そのことによって／お前はわたしの栄光を輝かすであろう」(14～15節)。神は犠牲の献げ物をどれだけささげているかを見ておられるのではなく、心の中にある告白をいけにえとして献げることを待っておられる。</p>
<p>27日 (日)</p> <p>詩編 51編</p>	<p>「神よ、わたしの内に清い心を創造し、新しく確かな霊を授けてください」(12節)。ダビデ王は、預言者ナタンの厳しい叱責により、自らの「血を流した罪」(14節：口語訳)と向かい合わされた。私たちが真に厳しく裁く方は、私たちが真に救う方。私たちが自らの罪とまっすぐ向かい合わされるところに、十字架による新しい創造(Ⅱコリント5・17)が起こされていく。</p>